

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」

第 13 回 文選の「土と木」

「令和」の典拠は『万葉集』の「于時、初春令月、氣淑風和」。中国の『文選』（蕭統、530年頃）に張衡（78年～139年）の『歸田賦』「於是、仲春令月、時和氣清」があり、その影響も指摘されている。『文選』は歴代の名文、詩歌を集めた中国の文人の必読書で、日本にも天平以前に渡来して広く愛読された。

張衡には、この『歸田賦』のほか、長安の都を描いた『西京賦』（107年）が『文選』にあり、寵臣の大邸宅についての「木衣綈錦、土被朱紫」は「木には綈錦（ていきん）を衣（き）せ、土には朱紫（しゆし）を被（かうむ）らしめ」と読む。また『後漢書』（范曄、432年以降）の宦者列傳が収められており、「狗馬飾彫文、土木被緹繡」は「狗馬（くば）は彫文（ていぶん）を飾り、土木は緹繡（ていしう）を被（かうむ）る」と読む。これらは、『漢書』（班固、80年頃）の東方朔傳「木土衣綺繡、狗馬被績罽」（木や土にきらびやかな繡（ぬいとり）を被い、犬や馬に五彩の毛織を着せ）や佞倖傳：董賢「木土之功、窮極技巧、柱檻衣以綈錦」（土木の工に技巧をきわめつくし、柱や欄干（てすり）を厚絹や錦で被（おお）うた）を下敷きとしており、技巧と贅を尽くした邸宅の「木」は柱、欄干に厚絹、錦や刺繡を被せた、「土」は壁に朱紫を塗ったり、刺繡を被せたりした。ここで「木・土」も「土・木」も建物構造の「柱」と「壁」を表しており、「土木」の一つの典拠といえるのではないか。

参考文献：新釈漢文大系「文選」（明治書院）、小竹武夫訳「漢書」（筑摩書房）

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.61 コンテンツ

巻頭言	長寿社会における生涯学習	花村 義久	2
コラム	NPO は大学を未来につなぐパートナー	辻田 満	3
土木と市民社会をつなぐ	第5回 ファッションの後ろでがんばる土木を伝えたい	奥田早希子	4
部門活動紹介	インフラメンテナンスをより身近に考える時代に向けて	岡野 登美子	6
会員からの投稿	「働き方改革の行方」	小林 大	7
サポーターからの投稿	市民が楽しむ土木空間は継続する—中村良夫先生の言葉	岩倉成志	8
事務局通信			9